

たるものに非ずして遠く戦國時代に創まり、兩漢、南北朝、隋等の時代に幾度か増築改修せられ、明代に迨ひて始めて現状の如き壯大なる長城を大成したることを知らざるべからず。三代の頃行はれし車戦は廢れて、騎戦漸く戦國に行はるゝに至り、魏、齊、楚、韓、趙、燕、秦の諸國争うて長城を築き、各々其國境の防備とせり。此内秦の宣太皇、魏の惠王、趙の武靈王、及燕將秦用の如きは、北方の胡人に對する防禦物として、各々北境に長城の設備を成しぬ。即ち秦の長城は隴西(今の甘肅省鞏昌府附近)北地(今の甘肅省慶陽附近)上郡(今の陝西省延安府附近)に亘り、魏は固陽(今の陝西省榆林附近)一帶に城つきたりき。其の代(今の山西省代州府)より陰山(同朔州附近)に傍ひて高闕山(同西北大同府)に抵るものは趙の築ける所にして、造陽(今直隸省上郡)より起りて東北に走り、襄平(今遼陽附近)に至るものは燕の城つける長城とす。以上は皆戦國の末期に成れるものにて、始皇の築城より數年若くは數十年以前に在り。

始皇帝六雄を蕩平して三十六郡に君臨するに及び、其宿將蒙恬をして匈奴を驅逐せしめて、悉く黄河以南の地を收め、三十三年(紀元前二百年十四年)兵三十萬を發し、臨洮より起りて遼東に至る蜿蜒萬餘里の長城を築かしめたり。其經由せし地點は史策の